

2019年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

| | | | | | | | | | |
|--------------|--|---------------------|----------------------------|-------------------------------|---------|--------|--------|--------|----|
| 展覧会名 | THE BODY—身体の宇宙— | | | 担当者名 | 藤村拓也 | | | | |
| 会期 | 2019年4月20日(土)～6月23日(日) | | | 開催日数 | 58日間 | | | | |
| 協賛・後援・協力 | 主催:町田市立国際版画美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会 協賛:ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網 | | | | | | | | |
| 巡回館 | 無し | | | | | | | | |
| 展覧会概要 | 美術、解剖学、そして占星術の視点から描かれてきた身体イメージを、15世紀の西洋古版画から現代日本の美術家の作品まで、約140点の作品によって紹介する展覧会。第一章「理想の身体」、第二章「解剖図幻想」、第三章「身体への宇宙へ」の三章に、断章「聖なるからだ」と「ピラネージの建築解剖学」を加えた展示構成をとった。 | | | | | | | | |
| ねらい・対象 | 人間の感性・知性・想像力が多彩な身体イメージを生み出してきた歴史を、「美術」、「解剖学」、「占星術」の視点からわかりやすく伝えることを目指した。また古い時代の版画や書籍だけでなく、現代作家の作品も展示することで、「身体」が普遍的なテーマであることを知ってもらうことをねらった。対象は、市内外の美術に関心のある鑑賞者。 | | | | | | | | |
| 関連催事 | 催事名 | 開催日 | タイトル | 講師等 | 参加者数 | | | | |
| | 講演会 | 5月11日(土) | スライドトーク—美術館/学芸員の解剖— | 担当者 | 30人 | | | | |
| | ギャラリートーク 公開制作 | 5月25日(土) | スペシャルトーク+版画工房カワラボ! | 池田俊彦(出品作家) 河原正弘(版画工房カワラボ!) | 69人 | | | | |
| | プロムナードコンサート | 6月15日(土) | プロムナードコンサート—THE SAXOPHONE— | 坂口大介(サクソフォン) 南保ひとみ(ピアノ) | 184人 | | | | |
| | 制作体験 | 5月4日(土) 6月9日(日) | 復刻浮世絵版木・摺り体験 | 普及係 | 89人 | | | | |
| | ギャラリートーク | 5月18日(土) 6月8日(土) | 学芸員によるギャラリートーク | 担当者 | 69人 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 観覧料 | 一般 | 65歳以上 | 大・高生 | | | | | | |
| | 800円 | 400円 | 400円 | | | | | | |
| 観覧者数 | 有料計 | 無料計 | 総観覧者数 | 内、一般 | 内、65歳以上 | 内、大・高生 | 内、小・中生 | 内、その他 | |
| | 4,994人 | 2,511人 | 7,505人 | 5,438人 | 1,063人 | 753人 | 251人 | —人 | |
| | 目標値 | 11,850人 | | | | | | | |
| 主な収入 | 観覧料収入 | 図録販売収入 | 受託販売収入 | その他の特定財源 | | | | | |
| | 2,673千円 | 905千円 | 34千円 | —千円 | | | | | |
| 事業経費 | 【展覧会開催経費】 | | | | | | | | |
| | ・講師謝礼 | 90千円 | | | | | | | |
| | ・展覧会協力謝礼 | 180千円 | | | | | | | |
| | ・原稿執筆謝礼 | 90千円 | | | | | | | |
| | ・展覧会出陳謝礼 | 200千円 | | | | | | | |
| | ・広告宣伝委託料 | 734千円 | | | | | | | |
| | ・展覧会ポスター等作成委託料 | 4,001千円 | | | | | | 12,150 | 千円 |
| | ・運搬料 | 4,275千円 | | | | | | | |
| | ・展示・撤去委託料 | 645千円 | | | | | | | |
| | ・作品額装委託料 | 639千円 | | | | | | | |
| ・ディスプレイ作成委託料 | 1,296千円 | | | | | | | | |

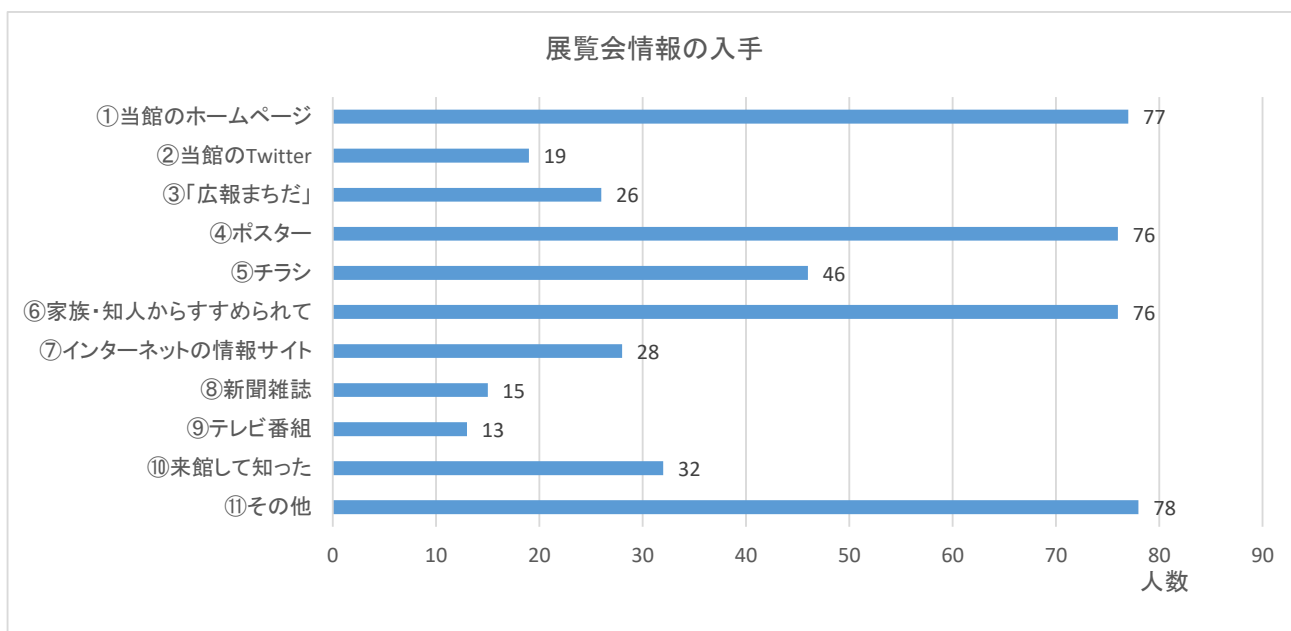
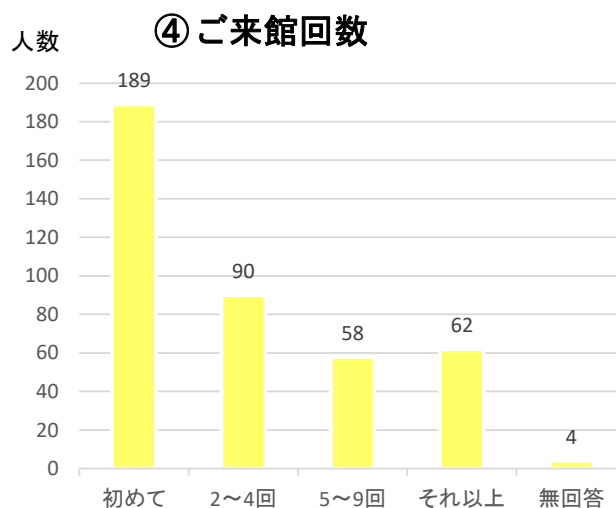
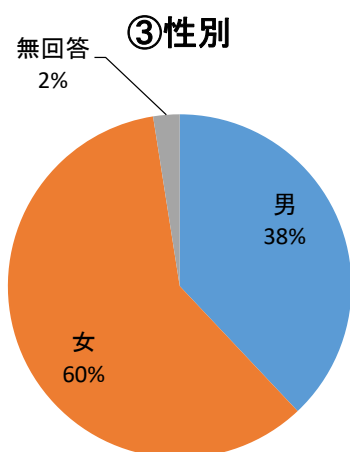
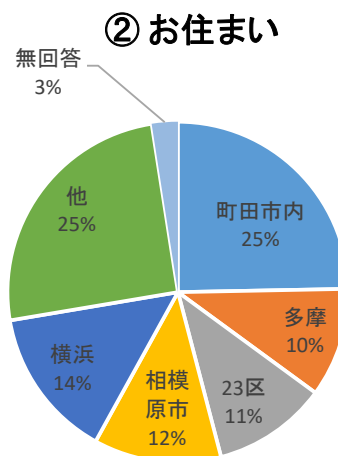
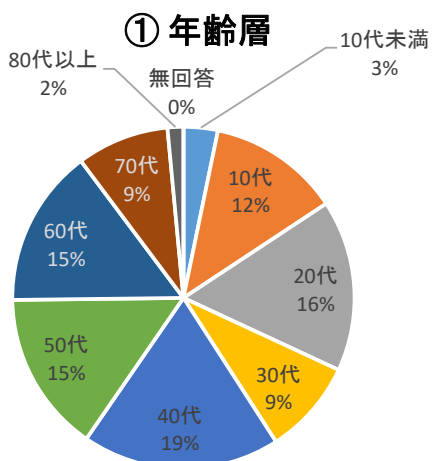
| | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|--|------|--------|---------------------|------|--------|--|
| 主な広報・取材等の講評 | ・5月12日 NHK『日曜美術館』の「アートシーン」にて放送 ・6月11日 『朝日新聞』夕刊に掲載(「強く、美しく、時に奇妙に—版画にみる「THE BODY—身体の宇宙」展」) | | | | | | | |
| アンケート結果 | 回収数 | 回収率 | 市民率 | リピーター率 | 満足度(とても良かったと良かったの率) | | | |
| | 411 件 | 5.5 % | 25 % | 51 % | 企画の内容 | 展示作品 | 展示の仕方等 | |
| | 主なご意見 別紙のとおり。 | | | | | | | |
| 工夫した点 反省点 改善方法 | 予備調査 | 2年前から文献調査や出品作家との交渉等を行った。ただし、他の業務との兼ね合いにより、本格的な他館への出品交渉を行うのが、1年～半年前になってしまった。長期的な計画はもちろんのこと、突発的な業務にも対応できる余裕をもって展示準備を進める必要がある。 | | | | | | |
| | 作品選択 | 出品点数135点のうち、57点を収蔵品から展示し、78点を他館・画廊・個人から借用した。デューラーやウエザリウスらの有名な版画・書籍にくわえ、剣術・格闘術の挿絵付教本のような珍しい品も展示し、身体のイメージの歴史を多角的に紹介できるように作品を選択した。 | | | | | | |
| | 図録作成 | 例年通り1,200部を作成した。出品作は細密な版画や書物の挿絵、空間を演出するインスタレーションと多岐にわたるため、判型は汎用性のあるA4変型にした。論考3本、全出品作の図版、作品解説、参考文献を掲載し、全192頁の図録となった。 | | | | | | |
| | ディスプレイ | 作品に適宜解説をつけ、内容も来館者の鑑賞の助けとなるように簡潔な表現を心がけた。また壁を斜めに設置し、鑑賞者の動線を滑らかにしたり、書籍は専用のアクリルケースに入れて見やすくしたりするなどの工夫をおこなった。ディスプレイ業者とは密に連絡し合い、各種取付けも問題なく行うことができた。 | | | | | | |
| | 広報 | 展覧会の約1ヶ月前に、プレスリリースを発送した。共催の『読売新聞』の開催記事をはじめ、同社多摩版には2回にわたり、担当学芸員による出品作品の紹介記事が掲載された。その他NHK『日曜美術館』の「アートシーン」や『朝日新聞』で紹介された。またSNSを活用し、展覧会の内容だけでなく、図録やグッズの宣伝等も積極的におこなった。 | | | | | | |
| | イベント | 出品作家によるスペシャルトークと公開制作をはじめとした、作家と来館者、美術館(学芸員)と来館者を直に結ぶイベントによって、参加者の作品や美術館に対する理解を深めることができた。一方で、著名人による講演会といったような集客性を重視したイベントも検討すべきだった。 | | | | | | |
| | 作品輸送 | 作品輸送は予定通り進み、特に大きな問題はなかった。 | | | | | | |
| | 展示撤去 | 展示撤去は予定通り進み、特に大きな問題はなかった。 | | | | | | |
| その他特記事項 | 会期中、名古屋大学教授の栗田秀法氏による本展の展評をはじめ、ルネサンス学の研究者であるヒロ・ヒライ氏や批評家・後藤護氏による本展紹介が、インターネットに公開された。また学術書の出版社である工作舎のホームページに、本展のレポートと担当学芸員へのインタビューが掲載された。 | | | | | | | |

「THE BODY—身体の宇宙—」 展

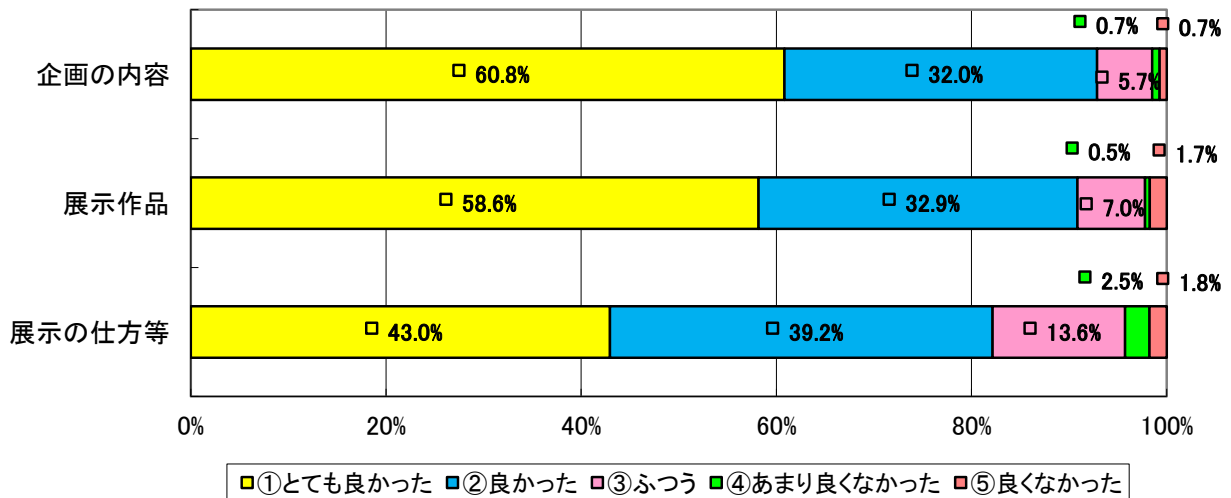
アンケート集計結果

開催期間：2019年4月20日（土）～6月23日（日）

回答者数： 411 人（総入館者数：7,505人 アンケート回収率：5.5%）



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

- ・大垣さんの作品がすてきでした。・現代の作家までつなげているのがよかった。
- ・中世の美術について引き続きいい企画を期待しています。・テーマの掘り下げがとても深く知的であった。
- ・デューラーの作品がよかった・収蔵品の特長を活かしつつ、新しい展開を見ることができた。
- ・鑑賞していく流れがとてもスムーズでゆったりできました。・説明の長さが丁度よかったです。
- ・ライトアップがよかった・作家(※池田俊彦氏)のギャラリートークが興味深かったです。
- ・写真を禁止していないところがいい。・ポスターにとっても惹かれました。
- ・手に触れる物や体験できるものがあればもっと楽しめると思った。・東洋の表現も見たかった。
- ・もう少し撮影OKのものを増やして下さるとうれしいです。・参考図書の紹介などがあればうれしい。
- ・キャプションが小さめでややみにくかった。・全体に暗すぎて少々見づらかった。
- ・展示タグ(※キャプション)に原語の表示をいれてほしい。
- ・(※解説が)詳細すぎる、わかりにくい。・もう少し説明がほしかった。
- ・トークフリー(※デー)なのに家族と話していたら注意されて不快な思いをした。

本展の総入場者数は7,505人で、目標値の11,850人には及ばなかったが、来館者の満足度は高かった。来場者の年齢層は「40代」が最も多く、次いで「20代」が多かったことから、若い世代の来館が多かったといえる。住まいは「町田市内」と「その他」が最も多く、遠方より来館する方もいた。また初めて来館する方も多かった。

展覧会の情報入手先としては「その他」がもっとも多かった。次いで「当館のHP」、そして「家族・知人からすすめられて」、「ポスター」が続いた。アンケートにもポスターについての肯定的な意見があり、広報の基本ツールであるポスター・チラシの優れたデザインが集客につながることを示唆しているといえる。また「その他」には出品作家や来館者等のfacebookやinstagramを目にしてきた、という声が少なくなかった。当館はtwitterに続き、9月からinstagramの公式アカウントを開設。SNSのさらなる活用が望まれる。

アンケートの意見・感想には、展覧会のテーマや出品作家への肯定的な意見が目立った。動線や照明、展示解説については、肯定・否定の両方の意見があった。よりユニバーサルな展示デザインを検討・実践していかなければならない。同様に、美術館という場での会話についても、来館者の感覚と当館の対応のあいだのズレを解消していく必要があるだろう。